

IV 「その他」の意見

(回答者の属性) 職業

- 歯科助手 (女性・30歳代)
- 教職 (幼稚園) (女性・20歳代)
- 土木作業員 (男性・50歳代)
- 施設職員 (女性・30歳代)
- 会社役員 (男性・70歳以上)
- 会社役員 (男性・50歳代)
- 介護職員 (女性・40歳代)
- 農業、会社員、公務員・団体職員、自営業 (男性・30歳代)
- 調理師 (女性・50歳代)
- 土木作業員 (男性・30歳代)
- 植木 (男性・70歳以上)

(回答者の属性) 家族構成

- 親と子と知人 (女性・40歳代)
- 母と2人 (女性・30歳代)
- 四世代家族 (男性・20歳代)

- 親と子ども夫婦と孫とひ孫の四世代 (女性・60歳代)
- 親と子どもと孫 (女性・40歳代)
- 夫婦と未婚の子ども (男性・60歳代)
- 親と兄弟 (男性・40歳代)
- 両親と夫婦と子供2人 (男性・40歳代)
- 夫婦と子ども1人 (男性・70歳以上)
- 夫婦 子供 孫 (男性・60歳代)
- 親(母) 2人 (女性・40歳代)
- 祖父母と孫 (女性・20歳代)
- 母子家庭 (女性・30歳代)
- 妹と同居 (女性・60歳代)
- 祖父母と親と子 (女性・20歳代)
- 親と子どもと孫 (女性・60歳代)
- 夫婦と孫 (女性・50歳代)
- 親と姉、夫婦、未婚の子ども (男性・60歳代)
- 寮 (男性・20歳代)
- 親と未婚の子どもと孫 (女性・20歳代)
- 家族 (女性・20歳代)

- 親と子ども夫婦と姉と子 (女性・30歳代)
- 祖母、父、本人 (男性・30歳代)
- 親と子 (男性・50歳代)
- 弟と2人暮らし (男性・50歳代)
- 私と未婚の子供 (女性・30歳代)
- 同居人と2人 (女性・40歳代)
- 祖父・父・母・妻・子 (男性・30歳代)
- 夫婦と親1人 (女性・50歳代)
- 親と未婚の子供と妹 (男性・50歳代)
- 祖父母、親 (男性・20歳代)
- 親と子 (女性・50歳代)
- 祖母、夫婦 (女性・60歳代)
- 親と夫婦 (女性・50歳代)
- 親と2人 (男性・30歳代)
- 親と子どもと義妹 (女性・30歳代)
- 兄弟2人 (男性・40歳代)
- 四世代家族 (女性・30歳代)

(問 1-1) 社会全体の中で男性のほうが優遇されていると思われる原因

- 作業資格が無い（国家試験） (男性・40 歳代)
- 女性の半分ぐらいが他人まかせ。男性だからやってと言う。 (男性・50 歳代)
- いろんな事柄に対して平等に対する意識がうすい。 (男性・40 歳代)
- できることが男性より少ないから。 (女性・20 歳代)

(問6) 女性の仕事や結婚についての理想像

- 男女共に育児休を2年とする法化 (男性・60 歳代)
- 本人が望む形になる。 (男性・30 歳代)
- 理想像はありません。 (男性・50 歳代)
- 年令的に回答は出来ません。 (女性・70 歳以上)
- 夫と共に全てに於いて行動したい。 (女性・50 歳代)
- 家族構成に応じて一番良い方法を話し合い決める。 (男性・60 歳代)
- その人の考え方にもよると思う。 (女性・60 歳代)
- 産休育休後職場復帰できる環境 (女性・60 歳代)
- 苦勞する理想像に思う。 (男性・30 歳代)
- その時に応じて自由に選択できる（まわりの環境でやりたいようにできないことが一番よくないと思います） (女性・50 歳代)
- 自営業なので考えた事はありません。 (女性・60 歳代)

- 女性の意見を尊重したい。 (男性・30 歳代)
- 出産を機に仕事を休職し家庭に入るが、子どもが一定の年齢に達したら、再び仕事に就く。 (女性・40 歳代)

(問7) 女性が仕事をもち続けるうえでの障害

- 金銭問題。家に入りたいとも思うが金銭に余裕がなくなる。 (女性・20 歳代)
- 会社経営者 (男性・50 歳代)
- 男性の法律制度 (男性・30 歳代)
- 出産後、3 歳ぐらいまでは子供を自分で見ていたい (育てたい) 為 (女性・40 歳代)
- 保育園に預けても、子どもが病気などで長期休むとクビになる。理解がない。 (女性・30 歳代)
- 子の病気や障害、見てくれるサービスの情報提供、体制の充実 (女性・30 歳代)
- 田舎の人間特有の偏見 (男性・20 歳代)
- 女性にとって (私) 家庭を基本におきたい時、働ける時間帯、曜日は限られる。子供が多ければ急な休みもある。そういった環境では替えのきく工場などしか働く場が限られてしまう事。 (女性・30 歳代)
- 給与の違い (女性・20 歳代)
- 障害となっていると決めつけていない。障害となっているのですか？ (男性・30 歳代)

(問8) 女性が働きやすい環境をつくるためには

- 子供が病気になった時に仕事を休みやすい環境 (女性・30 歳代)

- 補助金や助成金など (男性・30 歳代)
- 職場に保育施設などがあると、安心して仕事が出来ると復帰しやすい。
(女性・40 歳代)
- 男性の家庭生活への参加促進を阻むのが男性側の会社の理解と諸制度の遅れ。
(女性・60 歳代)
- 女性が働きやすい環境は、同時に男性も働きやすい環境であり、大事な所。誰かが優遇される事によって、誰かに負担がかかるのではなく、それぞれのポジションを選抜して働く事が出来たら良いと思う。1 番大切なのは家庭のあり方を夫婦で確認し合い協力し合う事と思う。
(女性・50 歳代)
- 女性だけを別もしくは限定していること自体が環境づくりのさまたげになっていると思う。制度自体は既に十分であると思う。
(男性・20 歳代)
- 家事・育児・介護などは参加するものではなく、男性もあたりまえのこととしてやるべきだと思う。
(女性・30 歳代)
- 家庭を大事にしたい女性の働く場の創出。(責任を持たない、意欲がないという事ではない。)
(女性・30 歳代)
- 男女間の意識のすりあわせ＝教育？
(女性・50 歳代)
- 男性だけではなく、子どもを社会全体で育てる意識。身近な人たちの協力、ネットワークの確立
(男性・20 歳代)
- 職場の理解
(男性・30 歳代)

(問9) 管理職になりたいか

- なんともいえない。
(男性・30 歳代)
- 女性も一生、仕事にオンリーなの
(男性・50 歳代)

- パートの為管理職にはなれません。 (女性・50歳代)
- 農業 (女性・60歳代)
- 農業なので無関係 (女性・50歳代)
- 自営なので考えられない。 (女性・50歳代)
- 職業が農業 (男性・70歳以上)
- 今役員です。 (男性・70歳以上)
- パート職なので。 (女性・50歳代)
- 自営で店主なので。 (女性・60歳代)

(問10) 有給休暇や育児休業などを取りやすいか

- 制度があれば本人の考え方次第 (男性・60歳代)
- 介護休暇は制度はあるが、取っている人はいない。年休を利用している。 (女性・50歳代)

(問11) 育児休業を取りたいか

- 仮に自分が若く、今の職場であれば必ず取ると思う。 (女性・50歳代)

(問12) 働いていない理由

- 高年令であるため働けない (女性・70歳以上)
- 家庭での仕事が多い (女性・40歳代)

- 大学生 (男性・20 歳代)
- 家事の間に家業を手伝っているから。 (女性・40 歳代)
- 子供の体調で休みをとったりと休みがちになる為。 (女性・30 歳代)
- 老人 (女性・70 歳以上)
- 年令 (男性・70 歳以上)
- 子供夫婦が働いて孫の面倒を見ている。 (女性・60 歳代)
- 子供に障害があって一緒に療育施設に通っていて、働きたくて面接に行っても落とされてしまう。 (女性・40 歳代)
- 高齢者だから。 (女性・70 歳以上)
- 夫と共に働いています。 (女性・50 歳代)
- 年令が高すぎるので働く場所がない。 (女性・60 歳代)
- 学生 (女性・20 歳代)
- 学生だから (男性・20 歳代)
- 学生 (男性・20 歳代)
- 学生だから (男性・20 歳代)
- 学生の為 (男性・20 歳代)
- 学生のため (男性・20 歳代)
- 歳月もすぎて気力向上しないと決めたから。 (男性・30 歳代)
- 農業ですので働きには出ません。 (女性・60 歳代)

- より学びたいことがあり、大学進学をしているから。 (女性・20歳代)
- 自営業で仕事がない。 (男性・70歳以上)
- 子供がまだ小さいから。 (女性・20歳代)
- 子供が小さいから。 (女性・20歳代)
- 出産を機に退職となり子育て中なので。 (女性・40歳代)
- 仕事での収入の安定 (男性・30歳代)
- 学生だから (女性・20歳代)
- 学生のため。アルバイトはしています。 (女性・20歳代)

(問 13-1) 現在参加している地域活動

- 商業団体 (男性・50歳代)
- お子安講 (女性・30歳代)
- 消防団 (男性・20歳代)
- 青年会 (男性・40歳代)
- 部落 はやし連 (男性・50歳代)
- おこやすこう (女性・30歳代)
- ボランティア (女性・60歳代)

(問 13-2) 今後参加したい地域活動

- 部落の行事 (女性・40 歳代)
- 特にない (男性・30 歳代)
- 国際交流、シルバー人材センター (男性・70 歳以上)
- 祭り (女性・20 歳代)
- 農業関係 (男性・60 歳代)
- 参加する時間がない (女性・20 歳代)
- 参加していない (女性・20 歳代)
- 病気 (女性・20 歳代)
- 参加したくない (女性・20 歳代)
- 婚活 (男性・30 歳代)
- 商工会婦人部 (女性・60 歳代)
- 神社、寺 (男性・60 歳代)

(問 14) 男性の参加を促進するためには

- 上記全てを充実させる事 (男性・60 歳代)
- 日本の生活レベルは高すぎる。お金がかかりすぎる社会を改善すべき。
(男性・20 歳代)
- 本人の意欲増進 (女性・30 歳代)
- ムリだと思う。 (女性・30 歳代)

- 自覚だと思う。 (男性・50 歳代)
- 個人の考え次第なので、強要はできない。 (女性・60 歳代)
- より充実した制度化とその啓発 (女性・60 歳代)
- 個人の気持ち (女性・40 歳代)
- 今の労働環境でフルに働いている男性に対して、家や地域活動に参加するべきなどと言うのは無理があるのでは？ (男性・40 歳代)
- 男性の意識の問題もあると思う。 (女性・30 歳代)
- 義務教育から教育する。 (女性・50 歳代)
- 子供の頃から「することが当たり前」ということを教えこむ。 (女性・50 歳代)
- やはり家族内での個々の意識ではないかと思います。 (女性・50 歳代)
- 男性の意識改革 (女性・30 歳代)
- 子供の時から男性も家事などした方がいいと育てていけば、将来、やるようになるのでは・・・ (女性・40 歳代)
- 学校教育の中でも啓発教育をしていくこと。 (女性・40 歳代)
- 行政が推進してもダメでは？結局本人達次第。 (男性・30 歳代)
- 職場の理解、給料の見直し (男性・30 歳代)
- 男性の年代によっても異なるし、本人にやる気が無い限り 1～6 の選択肢は無駄。また、介護については、女性より独身男性が親の介護をする場合、よりつらい立場にある気がします。 (女性・50 歳代)

(問 15) 女性のリーダーが少ない原因

- P T Aなどでは学校側から会長をと言われる場合がある。 (女性・40 歳代)
- 面倒だから。 (男性・30 歳代)
- ほとんどの人が人まかせだから。 (男性・50 歳代)
- 仕事をしているとできない。 (男性・30 歳代)
- 仕事の時間が多く活動に参加できない。 (女性・60 歳代)
- 仕事をしていたら家事、育児、仕事に忙しくて無理です。男性は、仕事のみに関わり、比較的リーダーになれる条件がそろっている。 (女性・50 歳代)
- そうとも思えない。 (女性・60 歳代)
- 女性のリーダーが少ない事に何の問題があるのでしょうか？ (男性・40 歳代)
- 仕事がいそがしい為。 (女性・40 歳代)
- 西暦・時代背景から見て時期尚早で無鉄砲でもあるから。 (男性・30 歳代)
- 5～7の選択肢がとても失礼…これが差別の始まり。 (女性・30 歳代)
- 地域・学校が望むから。 (女性・40 歳代)
- 比較的自由のきく自営業の男性の方が多い、という流れが変わらない。 (女性・50 歳代)
- 酒の席等で「男連中の下衆な話に付き合いきれない」と思っているのでは。 (男性・20 歳代)
- 組織、社会がリーダーに女性を求めるから。女性は家事を放りだす事が出来ないから。 (女性・30 歳代)

- 平等に見る目がない。口うるさい。 (男性・40 歳代)
- 責任を負うため。 (女性・20 歳代)
- 最近は P T A など女性の方が多いと思います。 (女性・40 歳代)
- 昔からの日本の風習 (男性・30 歳代)
- C B、T P O、P C C (男性・30 歳代)
- 孤立している 1 人ひとりが (女性・50 歳代)
- 女性の方が多いと感じます。 (女性・20 歳代)
- 職場においても女性は男性の 2 倍働いて初めて一人前に見られる気風がある様に。例えば、独居老婦人はちょっと軽く見られたりする。 (女性・50 歳代)

(問 16) 男女ともに「仕事と仕事以外の生活の調和」をはかり、充実した生活を送るために必要なこと

- 質問者はなにが重要と思いますか？ (男性・60 歳代)
- 生活（金銭）に余裕がないから。 (男性・70 歳以上)
- 給料アップ (男性・60 歳代)
- 1、4 と回答しましたが、実質的には不可能ではないかと思う。 (男性・40 歳代)
- 元気で経済的苦悩のない充実した生活 (男性・30 歳代)
- 景気の回復と若年層の収入の上昇 (男性・40 歳代)
- そもそも結婚相手を探す場がない。 (男性・20 歳代)
- 今の社会は差別がある。 (男性・40 歳代)

- その人によって異なると思う。 (女性・50歳代)

(問17) 指導的地位に占める女性の割合が増えたほうがよいと思うか

- 能力があれば誰でも良い (男性・20歳代)
- 割合の問題ではなく能力の問題 (男性・20歳代)

(問17-1) 女性の割合がもっと増えるほうがよいと思う職業

- どれということはない。現在の社会慣行上、能力があっても女性はその職(役)につけない状況を少しでも改善し、能力、意欲があれば女性でも登用、任用されるようになっていけば良い。 (男性・60歳代)
- どの職場でもふさわしければ。但し、男女の性的違いはあると思う。 (女性・50歳代)
- 性別に関係なく能力のある人 (女性・50歳代)
- 今を変える全ての職業に必要 (女性・30歳代)
- 土木作業・電気工事 (男性・30歳代)

(問18) 女性の参画が増えることによって、社会がどう変化と思うか

- 変化は会社で個人には変化なし (男性・30歳代)
- 見方が変わる (女性・30歳代)
- 能力のある人が首相をやる確率が高くなる (男性・40歳代)
- 女性優先の社会になっていく (男性・30歳代)
- 日本が変わるのでは。 (男性・30歳代)

- これまで気づけなかった政策がない。 (男性・20 歳代)
- 細やかな気配りができても、ダイナミックな政策を大所高所から引っ張って行ける女性は少ないと思う。 (女性・50 歳代)

(問 20-3) 配偶者や恋人などからの暴力を誰(どこ)にも相談しなかった理由

- そういう性格だからなおらないと思った。 (女性・40 歳代)
- 言えなかった。自分の内にとじこもった。 (女性・40 歳代)

(問 21) 出生率が低下した原因

- 子どもが欲しくても出来ない夫婦が増えたから。近年非常に目につくようになった。 (男性・50 歳代)
- 単身や核家族化が進みすぎたから。 (男性・40 歳代)
- 不妊症が増えているから。 (女性・30 歳代)
- 核家族化に依り子育ての支えがないから。 (女性・60 歳代)
- 不妊女性が増えている(子どもがほしくてもできないなど) (女性・30 歳代)
- 「様々な理由で」・・・その中には経済的理由も含まれる。若い人が安定した職につける割合が減っている。 (男性・60 歳代)
- 子供がほしくても出来ない人も増えたからだと思う。 (女性・40 歳代)
- 家庭内の労働力として子供を必要としなくなったから。 (男性・20 歳代)
- 男女とも出会いの場が少なくなった。町でそういう場をもっとふやしてほしい！ (女性・50 歳代)

- 福祉というと高齢者にばかり目が向いて子育て世代への支援が少ない。若者への支援が少ない。年寄りを優遇しすぎ！！仕事で生活していける収入のない若者が多く、結婚、出産、子育てまで考える余裕のないケースが多いように思う。 (女性・50歳代)
- 20代～30代の人々の低賃金化。欧米に比べて少子化対策への無策化。 (男性・60歳代)
- 核家族化で、子育ての協力者がいないから。 (女性・40歳代)
- 不妊治療費が高額だから。 (女性・30歳代)
- 情勢とか時代の流れかも。 (男性・30歳代)
- 不妊症の人が増えた（男女共に） (男性・30歳代)
- 生活のゆとりが少なくなっています。 (女性・30歳代)
- 時代の変化、結婚して未来を考えるほどの収入がない。 (男性・30歳代)
- 家庭をもつという意識がない（特に男）とったかみたかでその日暮らし。 (男性・60歳代)
- 雇用条件が不安定なので、金銭面で不安のあるまま結婚するのはできない。 (女性・30歳代)
- 先進的になる程、後進国より出生率は低くなるもの。昔の様に、第一次産業を家業として生きて行くなら子供こそ労働力なので必要となるが、現在は第三次産業が多く、自分だけが食べる給料しかもらえず、結婚も無理という人も多いのでは。 (女性・50歳代)

(問22) 出生率を上げるために行政が推進すべき施策

- 子どもができない・できにくい人たちへの様々な支援 (女性・30歳代)
- 人材育成の強化、義務教育の自立へ向けての内容を充実させる。 (女性・30歳代)

- 不妊に悩んでいる人が多いため、不妊治療助成を増やすべき。 (女性・30 歳代)
- 不妊治療費の補助 (女性・30 歳代)
- 若者が安定収入を得られる職（仕事）の受け皿の拡充。 (男性・60 歳代)
- 行政が出生率に口出し不要→人口に見合った行政をすればいいの。 (男性・70 歳以上)
- 不妊治療費の保険適用 (女性・30 歳代)
- 不妊や不育、産みたくても産めない人がいる事の理解と補助 (女性・30 歳代)
- 学校卒業後おちついて働ける場の確保。十分な収入の保障。 (男性・60 歳代)
- 不妊治療などの支援、(給付金) 援助、職場の理解等 (男性・50 歳代)
- 不妊治療の助成金をもっと増やす (女性・30 歳代)
- 労働時間の制限（法整備）、罰則（長時間労働） (男性・40 歳代)
- 子供の必要性がわからないと何をしてもだめだと思う。目先のことしか考えられない親が多い。 (女性・30 歳代)
- 不妊症が 30 年位の間で激増している事について、社会的にもっと関心を持ち、皆で自分の問題として考え、対策を講じるべきだと思います。 (女性・50 歳代)
- 平等で希望のもてる地域であること (女性・50 歳代)
- 3.5.のように補助したり、増額したりすると親が社会へのあまえが出てくると思う。 (女性・60 歳代)
- 収入のアップ (男性・30 歳代)
- 若年層の賃金アップ (女性・20 歳代)
- 行政がどうこうして変わるものでもない。 (女性・50 歳代)

(問23) 自分の老後について、不安に思うこと

- 現在もらっている年金の額が少なくならない事 (女性・60歳代)
- 一人で家事をこなさなくてはならないかと思う事 (女性・40歳代)
- 子供に負担をかけてしまうのではないかと不安になります。 (女性・30歳代)
- 年金 (男性・40歳代)
- 子供達のせいかつをそくばくしたくない。 (女性・60歳代)
- 年金がもらえるのか？ (女性・20歳代)
- 老人ホームの料金を安くしてほしい。高くて入れません。 (女性・60歳代)
- 自分が老いた時介護の環境が充実しているかどうか。 (女性・20歳代)
- 払った年金をそのまま借りパクされそうな年金制度 (男性・30歳代)
- 子の障害や病気から子の将来の心配 (女性・30歳代)
- 年をとり地域の人との継続した接点を持たず、一人孤立すること (女性・50歳代)
- 子・孫と同居出来ているかどうか。 (男性・30歳代)
- 一人になってしまうので財産等の管理 (女性・50歳代)
- 人生に楽しみがあるか (男性・30歳代)
- 増税ばかりで、国は国民一人一人の生活を保障してくれるのか？すごく不安。
(女性・30歳代)
- 楽しく生活する地域的な活動がイメージできない。 (男性・50歳代)
- 年金受給額 (男性・50歳代)

- 将来の退職金、年金が不安である。(個人年金の備えはあるが) (男性・50歳代)

(問24) 誰に介護してほしいか

- 家族 (女性・70歳以上)
- 介護は望まない。殺してもらってもいい。 (女性・60歳代)
- 一生懸命生きて一人で生活できなくなったら覚悟を決めます。 (男性・30歳代)
- 配偶者ができたら配偶者に (男性・40歳代)
- だれでも (男性・30歳代)
- わからない (男性・60歳代)
- 自ら命を絶つ (女性・40歳代)
- 介護する方もされる方も辛い。現実金の面で大変だ。 (女性・50歳代)
- 寝たきりになるなら誰の世話にもならず、死んだほうが良いです。 (女性・40歳代)
- 死ぬ (男性・30歳代)
- 家族 (女性・60歳代)
- わからない (男性・50歳代)
- 殺してほしい (女性・20歳代)
- 寝たきりになった場合お金がかかるので施設に入れるか？子供もあてに」ならない。出来れば年金でまかなえる施設に入れれば良いと思います。高齢者が多くなるので不安です。 (女性・60歳代)
- 寝たきりになったら世話にならずに息をひきとりたい。 (女性・20歳代)

○ 誰でも (男性・30 歳代)

○ 入所 (女性・50 歳代)

(問 25) 男女共同参画社会の実現に向けてどのような取り組みが必要か

○ 家庭生活における男性の家事への協力の啓発・促進 (男性・60 歳代)

○ 「女のくせに」という男性が多い。女性を深く理解すれば、女性は何でもできるし、強いし、男性はダメ。私もダメ。女性はグレートだ。 (男性・年齢不詳)

○ 女性のがんばり (男性・40 歳代)

○ 自然のなりゆきにまかせる。時がかいけつする。 (男性・60 歳代)